

しらぬか

議云

NO.148
2020. 4.24

だより

2 令和2年第1回定例会概要

4 令和2年度予算審査

8 一般質問9名

18 委員会の動き

21 アトキボシツギ「旧国鉄白糠線の高架橋について」他1件

22 自糠いい店こんな店「ティアラ. M」

ともだちたくさんつくるぞー

(学校法人 二葉学園 自糠子ども園の園児)

- 白糠町営バス運行に関する条例
(予約制バスの乗車使用料の改正)
- 職員のサービスの宣誓に関する条例
(総務省からの通知に基づく所要の改正)
- 白糠町営住宅管理条例
(民法の債権関係の規定の見直しに伴う利率の改正。)



町道路線の認定

白糠小中学校外統合事業に係る地域住民の避難経路確保及び西庶路朝日団地跡地を定住宅地として整備に係ることから、道路法の規定に基づき、新たに町道2路線を認定する。

①路線名は「白中北通り」

- ・起 点 西5条北2丁目2番2地先
- ・終 点 和天別1307番4地先
- ・道路延長 475.2 m
- ・敷地幅員 11.50 mから18.30 m



②路線名は「西庶路新朝日7号通り」

- ・起 点 西庶路東2条北1丁目1番1地先
- ・終 点 西庶路東2条北1丁目1番5地先
- ・道路延長 108.0 m
- ・敷地幅員 6.50 mから6.50 m



条 例 等

一部改正・制定

- 白糠町生き活きしらぬか事業基金条例
(白糠町生き活きしらぬか事業基金を設置するための条例制定)
- 白糠町有農地の無償譲渡に関する条例
(無償で農地を譲渡するために必要な事項を定める条例制定)

質疑・答弁

問 7.3町歩ほどの農地を約5000万円かけ、無償譲渡する予定だが、現時点での就農予定者は。

答 地域おこし協力隊員として新規就農予定者の募集している。現在決定しているのは1名。

問 無償譲渡には10年間野菜を作ることが条件で目的以外に使用してはならないが、途中で辞めた場合、転売出来るのか、もしくは無償で町に返還するのか。

答 目的以外の場合は、全地を返還する規定。また、第三者に転貸することは基本的には想定していない。

討 論

反対 第一産業の再興と振興をうたっているのであれば、既存の農業者の声を聞いて、手立てを講じることが先。断固反対(福地)

賛成 町の農業の振興のため、また担い手確保のため新規就農者の誘致の促進も含めて賛成。(折出)

採決は、賛成多数により原案可決



- 白糠町特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例
(法改正に伴い投票管理者などに交替制を適用したときの報酬額を定める改正)
- 白糠町地区集会所条例
(鉄北集会所の改築に伴い、集会室の床面積変更による施設利用料及び冬期加算額の改正)
- 白糠町保育所条例
(白糠町立白糠保育園の民営化に伴う所要の整備)
- 白糠町認定こども園条例を廃止する条例
(庶路こども園の民営化に伴う白糠町認定こども園条例の廃止)

行政報告

環境省地域連携・低炭素水素技術実証事業

●実証事業は、本年3月末までに施設の解体を終え、すべて終了する予定でしたが、期間を延長し、令和2年度をもって終了することの報告がありました。

ALTの離任

●外国語指導助手(ALT)の徐玉潔(シーイージェ)さんが4月に任用期間を終了し、離任することが報告されました。

徐先生は、わずか1年間の在任でしたが、町内すべての小学校・中学校・義務局育学校のほか、幼稚園、保育園、こども園、白糠高等学校、白糠養護学校で勤務し、中国語の指導はもちろん、母国中国の風俗、習慣、文化などの指導にあたり、子どもたちが中国語に親しむことができるよう、工夫した指導に努めました。

報告では、白糠町での外国語指導助手としての経験は、今後の人生において決して忘れることのない、かけがえのない貴重な体験であったこと、地域に暮らす仲間として迎え入れてくれた町民への感謝、中国に帰国した後、この経験をさらに活かし、白糠町と中国の親善の架け橋となる存在として自分を磨き精進していくという決意が述べられました。



シーイージェ 徐玉潔さん

過疎計画の変更

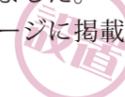
過疎対策事業債を財源に事業を行うため、白糠町過疎地域自立促進市町村計画を変更し「給食センター設備更新事業」を追加しました。



予算審査特別委員会

令和2年度一般会計及び特別会計予算審査のため、議長を除く全議員により「令和2年度白糠町各会計予算審査特別委員会」を設置しました。

予算審査内容は、4ページから7ページに掲載しています。



第1回 定例会

- 3月4日 ・行政報告・教育執行方針・一般質問
- ・特別委員会中間報告・専決・条例改正
- ・指定管理者の指定・過疎計画の変更
- ・町道路線の認定
- ・新年度予算の審査を特別委員会に付託

- 3月6日 ・新年度予算

※今回の議会は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、教育行政執行方針の朗読等は行わず日程を短縮して開催しました。

補正予算

一般会計補正予算

補正合計 33億146万3千円

●増額	
まちづくり基金等	837,865,000円
町道除雪業務	30,000,000円
ふるさと納税関連	1,989,635,000円
生活交通路線維持対策事業	7,527,000円
畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業	426,249,000円
白糠第2地区道営草地整備事業	13,000,000円
その他	766,000円
●減額	
町債の償還利子	3,579,000円



予算 審査

令和2年度の各会計予算審査は、予算審査特別委員会を設置して委員長に中村仁志議員、副委員長に鎌田民子議員を互選し、3月5日、6日の2日間の日程で行いました。

各課から新規事業等の説明を受け、質疑応答により慎重に審査しました。各課の主な質疑をお知らせします。(予算の内容は3月25日発行の町広報をご覧ください。)

各会計予算額

(単位：千円、%)

会 計	令和2年度	令和元年度	増減	増減率	
一 般 会 計	14,540,000	11,528,000	3,012,000	26.1	
特 別 会 計	国民健康保険	1,035,245	1,061,648	▲ 26,403	▲ 2.5
	簡易水道及び 飲用水道供給事業	63,281	61,060	2,221	3.6
	公共下水道事業	881,149	566,559	314,590	55.5
	介護保険	1,002,212	1,034,571	▲ 32,359	▲ 3.1
	後期高齢者医療	138,502	135,396	3,106	2.3
	計	3,120,389	2,859,234	261,155	9.1
合 計	17,660,389	14,387,234	3,273,155	22.8	

企画財政課

問 白糠魅力発信事業の中身に「子育て応援日本一の町白糖町」というキャッチコピーを掲げて、町全体で子育てに取り組んでいることを町内外の方に町の魅力として感じてもらうため、看板設置を継続事業とし町内の数か所に設置する。

問 旧第1職員寮(西1条北3丁目3番地35)解体後の用地の利用目的は。
答 定住宅地として活用を考えている。



旧第1職員寮

問 国道392号の跨道橋撤去の実施設計に関わって、撤去に対する国の交付金など何か方法は無いのか。
答 財源の検討はしてきたが、国からの交付金はない。今回は、公共施設等適正管理推進事業債を活用する予定。

問 しらぬかフォトコンテストについて詳しい計画は。
答 魅力ある白糖町の写真をテーマとし、フォトコンテストを実施する。部門を一般部門、小中学生部門、ふるさと納税部門に分けて写真を募集する。期間は、4月1日から来年の2月頃までと考えている。

総務課

問 町制施行70周年記念式典及び功労者合祀式について詳しく。
答 式典は、11月3日の文化の日功労者表彰に合わせて開催する。また、功労者の合祀式は、「太陽の手」顕彰碑前で、8月上旬から中旬の日程で開催を調整したい。

福祉課

問 西庶路寿の家を除却後再整備の予定はあるか。
答 改築する方向で検討している。規模は地域と協議し対応したい。



西庶路寿の家

問 アイヌ文化情報発信事業のモニターツアーの実施内容は。
答 札幌周辺の方をモニターとして募集し、白糖町のアイヌ民族ゆかりの地などの評価と参加者からの情報発信を狙いに実施する。

税務課

問 コンビニ収納は全体のどの位の割合を占めているのか。
答 普通徴収対象者全体の納付額、約5億9千万円のうち、およそ7千4百万円で、29.86パーセントの利用状況である。

庶路支所

問 町民センターとコミセンのLED化は何基か。
答 西庶路コミセンは169基、庶路町民センターは、116基、初期導入費用削減のため10年間のリースで設置する。

町民サービス課

問 火葬炉等の修繕の詳しい内容は。
答 修繕内容は、1号炉で火葬炉の主燃室Nレンガ、セラ

地域防災課

問 新規事業の防災教育事業ジュニア防災教室の内容を詳しく。
答 中学生を対象に、大学の講師による避難所運営ゲームや被災地の避難所の状況などを学びながら防災意識を高める事業を考えている。

問 津波のハザードマップの更新はいつ頃。
答 国が千島海溝沿いの巨大地震に関するハザード情報を公表し、北海道が津波のシミュレーションを公表した後、着手する予定。

問 津波指定避難場所案内ポスターについて詳しく。
答 南通商店街を中心にA2判のポスター作成を計画している。防災意識・災害意識を高めてもらうため、避難場所・津波指定避難場所が一目で分かるポスターを作り各店舗に、設置してもらう。

問 戸別受信機は、町内全戸に整備予定だが、何戸か。また、個人のアパート、マンションにもすべて設置を予定しているのか。
答 戸別受信機は、およそ3,900台の整備を考慮しており、すべての世帯、アパート、マンションにも設置を計画している。また、事業所も希望があれば設置する考えである。



問 消防団員の活動服は何着整備するのか、また、何年ごとに整備する計画か。
答 現団員103名分を予定している。貸与規定では、6年となっている。



答 状況は確認はしているが、大掛かりな改修ができないことから、支障があれば都度対応している。

答 町営住宅の浴室、水回りが相当傷んでいる。傷んでいる状況など確認しているのか。

答 橋北団地2Kの5、1棟18戸の屋根の吹き替え、外壁塗装を行う。除却工事は、橋北団地平屋1棟4戸の建物を2棟除却する。

建設課

答 町営住宅の外部改修工事、3800万円、除却工事、1600万円の中身を詳しく。

答 橋北団地2Kの5、1棟18戸の屋根の吹き替え、外壁塗装を行う。除却工事は、橋北団地平屋1棟4戸の建物を2棟除却する。



答 日帰り温泉の実施し結果を踏まえ、新年度に向けて検討していることがあるのか。

答 反省点は、多々あり、今年度は食事の内容を見直したい。また、実施場所についても再度検討する。

管理課

※2 普及率とは
計画区域内の人口のうち、下水道を使うことができる人口の割合。
※3 水洗化率とは
計画区域内の戸数に対して実施した戸数の割合。

答 今年度の白糠高校への進学予定者23名中、町内の中学校からは何人いるのか。

水道課

答 町内の卒業生は、白糠中学校が30名、庶路学園が27名、茶路中学校が2名なっている。うち白糠高校への進学予定者は、白糠中学校が7名、庶路中学校が5名、茶路中学校が0名。

答 下水道の普及率及び水洗化率は、67・1%です。

答 普及率は、72・8%。水洗化率は、67・1%です。

答 下水道の普及率及び水洗化率は、67・1%です。

答 下水道の普及率及び水洗化率は、67・1%です。

介護健康課

答 母子支援相談室の改修と子育て世代包括支援センターの設置内容は、幅広い世代の相談業務が増えているので、町民が安心して相談できるように庁舎1階の現保健相談室とその奥の部屋を広げる改修をする予定。

経済課

	1頭当たり(円)	頭数(頭)	予算額(円)		
放 牧	55	48,020	2,641,100		
舎 飼	肉専用種	517	130,260	67,344,420	
	ホル 横	4カ月以上	517	53,280	27,545,760
	4カ月未満	528	19,545	10,319,760	
合 計	-	251,105	107,851,040		

答 左記一覧のとおり
内訳および一頭当たりの1日の単価は。

答 肉用牛の預託育成予算額の単価は。

答 畜産クラスター事業の総体の事業費、そのうち補助金額は。



答 林道整備の場所はどこのか。
答 林道9路線(本流川島線、振興松川線、庶路青山線、熊の沢線、熊の沢支線、駒越線、上茶路線、中庶路線、松野沢線)のそれぞれの維持管理をする。内容は、それぞれの林道の草刈り、倒木の除去、側溝の清掃。

答 事業費は、家畜や機械の導入、施設整備など総体で約21億円となっており、そのうち施設整備に対して、国の補助金額が約6億円となっている。

答 事業費は、家畜や機械の導入、施設整備など総体で約21億円となっており、そのうち施設整備に対して、国の補助金額が約6億円となっている。

答 事業費は、家畜や機械の導入、施設整備など総体で約21億円となっており、そのうち施設整備に対して、国の補助金額が約6億円となっている。

答 事業費は、家畜や機械の導入、施設整備など総体で約21億円となっており、そのうち施設整備に対して、国の補助金額が約6億円となっている。

答 事業費は、家畜や機械の導入、施設整備など総体で約21億円となっており、そのうち施設整備に対して、国の補助金額が約6億円となっている。

答 町有林のエゾシカ侵入防止柵事業の対象はどこか。
答 人工造林事業を実施する

答 町有林のエゾシカ侵入防止柵事業の対象はどこか。
答 人工造林事業を実施する

学校給食センター

答 令和元年度から児童生徒のふるさと給食に合わせ、一般の町民の方にも試食会を実施している。

答 令和元年度から児童生徒のふるさと給食に合わせ、一般の町民の方にも試食会を実施している。

答 令和元年度から児童生徒のふるさと給食に合わせ、一般の町民の方にも試食会を実施している。

答 令和元年度から児童生徒のふるさと給食に合わせ、一般の町民の方にも試食会を実施している。



公民館講座

答 町民広場改修事業の中心は。

答 町民広場改修事業の中心は。

答 町民広場改修事業の中心は。

答 町民広場改修事業の中心は。



ふるさと給食

一般質問

議員9名が22件31項目について質問しました。
 ※今回の一般質問は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、議場での一問一答方式の質問はせず、答弁書の配布のみとしました。また、再質問がある場合は、文書質問で対応することとしました。

石田 正義 議員・・・・・・・・・・5ページ

- 1 振興センターについて
- 2 道道上庶路庶路停車場線について
- 3 漁業の振興について

坂本 勝雄 議員・・・・・・・・・・6ページ

- 1 白糠町の人口減少、定住減少に関して
- 2 太陽の手子育て支援について

小野 キサ 議員・・・・・・・・・・7ページ

- 1 脳ドックについて
- 2 風疹予防対策について

澤原 孝行 議員・・・・・・・・・・8ページ

- 1 町職員の定年退職年齢について
- 2 介護用品援助について

福地 裕行 議員・・・・・・・・・・9ページ

- 1 設置看板について
- 2 跨道橋について
- 3 創生総合戦略について
- 4 庶路ダムについて
- 5 模範牧場について

中村 仁志 議員・・・・・・・・・・10ページ

- 1 7選出馬の表明について
- 2 ヤナギの取り組みについて
- 3 送迎支援について

鎌田 民子 議員・・・・・・・・・・11ページ

- 1 加齢性難聴者への支援の考えはないか
- 2 スマートフォンやタブレット端末の使い方について

中河 敏史 議員・・・・・・・・・・12ページ

- 1 老老介護、認知介護について何う
- 2 人口減少の対策について何う

折出 征清 議員・・・・・・・・・・13ページ

- 1 町営住宅の入居の規制緩和について

※ 白抜き数字は紙面の都合により掲載できなかったものです。

問 振興センターについて

町内の空き地に新築する考えはないか何う。

答 適切な改修に努める

問 センター建築から30年以上経過し、改修や改築も多額の財源を必要とする。
 トイレ、出入口の改修、建築当初からいろいろ経過がある。
 駐車場も不便で思い切った改修が必要である。

答 「商店街近代化事業」の中核として昭和62年度に建築し、町内会・地域の活動や各種団体の会議など多くの町民に活用されている施設である。内装や床など老朽化が進んでいるのは事実であるが、躯体としては耐震基準を満たしており、照明のLED化、床、壁、水回りなど適切な改修に努めていく考えである。

ぎ迄大変な状況であった。見回り、点検について巡回業者と釧路建設管理部とはどのようになつていたか何う。

答 平成28年3月庶路インターチェンジ開通から4年経過したが、道路管理者の北海道は事故率が高い、或いは事故が多発している「事故危険箇所」は現在承知していないと何う。

出稼ぎや廃業も考え深刻な状況である。今日迄いろいろ取り組んできたと思うが、思い切った取り組みが必要と思われる。
 本町の前浜は海外で養殖に向いていないと言われていた。前浜を大きく囲い養殖を兼ねた防波堤の考えはないか何う。

問 令和元年12月29日～30日、みぞれが降り日陰のカーブがアイスバーンとなり、正月す

問 道道上庶路庶路停車場線について

駐車場は、錦地区「多目的広場兼駐車場」の造成、「白糠跨線橋高架下駐車場」を整備したほか、バスターミナル前駐車場なども利用し、商店街の賑わい創出という観点に立ち、人が行き交う町並みを目指したいと考える。

答 適切な維持管理に努めるよう求める

気象の影響を受けやすく日陰が多い山間部では冬期間の路面状態は刻々と変化する。北海道に早期状況把握と適時適切な維持管理に努めていただくよう求めていく。

問 漁業の振興について

しかし、大型車両同士が交差する際の事故なども危惧されることから、引き続き釧路建設管理部に適切な維持管理と交通安全対策を講じていただくよう要請するとともに、交通量などの状況を踏まえ、改良などを協議していく考えである。

答 漁協と連携を図り積極的に支援策を講じる

この数年不漁により、漁業者はもとより加工業者、関連する方々は悲鳴を上げている。

全道的に漁獲の不振が続いており、漁業経営が厳しいとの認識に立っている。
 天然資源が大きく減少している中、増養殖事業の重要性が高まっており、水産庁も、持続的漁業確立のための増養殖事業を奨励している。
 増養殖事業にあつては、漁業者自らの取り組み、漁業者が民間企業の力を借り、前浜だけでなく陸上での展開などを考えられる。前浜の活用は今後とも漁協と協議し支援策を講じていきたい。

エゾバイツプ増殖事業など様々な角度からその可能性を検討する動きが出ており、そのような取り組みに対しても、漁協と連携を図り積極的に支援策を講じていく考えである。



石田 正義 議員



坂本 勝雄 議員

問 白糠町の人口減少、定住減少に関して

答 雇用の場を確保する

問 昭和51年人口1万5000人、令和元年9月末人口7,751人、4,113世帯。12月末人口7,710人、4,101世帯。3ヶ月で人口が41人、12世帯が減少、町としては、この減少をどのように食い止めようとしているのか。それなりに鋭意努力していると思うが、必然的に高齢化率は上昇している。人口を増加させる近道は社会増、町外の人を白糠に移住させる事が一番と考えるが何う。

答 人口減少に歯止めをかけるべく、各分野において取り組みを推進している。残念ながらこの先においても人口減少は進んでいく。いかにこの減少ペースを抑制させるのが重要である。社会移動の視点で言うと、町外からの転入を増加させ町

内からの転出を減少させることである。

人口減少に歯止めをかけるため、雇用の場の確保と働く人の確保であると考えている。

本町の恵まれた自然と豊かな地域資源を活用しながら、一次産業を守り育て、産業基盤づくりを推進するとともに、新たな産業の誘致を図ることによって、雇用の場を確保する。合わせて、働く方々が安心して暮らすことができ環境づくりを進めていく。引き続き粘り強く取り組んでいくことが重要であり、人口減少のみならず、町の活性化を図る上でも大変重要であるので、その取り組みに全力を挙げている。

問 太陽の手子育て支援について

答 「子育て応援日本一の町」を目指していく

問 太陽の手子育て支援事業は、管内の市町村をはじめ、道内からも注目されている。

る事業である。当然町民からの評価も高く、特に子育てをしているお母さん方から大変喜ばれているが、今日までのそれぞれの施策の実績と成果について何う。

答 「太陽の手子育て支援」は、安心とゆとりをもつて子どもを産み、育てることができる環境づくりの5つの事業で、町内の太陽光発電施設による税金収入を財源としていることから「太陽の手」にちなんでネーミングし、平成30年度から取り組んでいる。

事業の実績は、平成30年度の内容で
・「出産祝い金」は、25人への支給で、125万円
・「18歳までの子供の医療費の無料化」は、助成件数が延べ5,937件で、助成金額は1180万7630円
・「認定こども園、保育園、幼稚園、保育料無料化」は、対象園児が合計83名で無料とした保育料は、2070万750円
・「給食費の無料化」は432名、8万2822食で無料

化の額は2047万9446円
・「新入学児童、生徒入学支援金の支給」は68名の支給で、支給額合計170万円となっている。
各事業とも、経済的な支援、負担の軽減として喜ばれ、子育てに役立っている。引き続きこれらの事業を展開し「子育て応援日本一の町」を目指していく。



小野 キサ 議員

問 「脳ドック」検査費用の見直し

答 自己負担を無料化する

問 40歳から69歳の令和元年の脳ドック受診者数37名は対象者数1,120名の3.3%で、受診者の中で、要経過観察及び要精密検査は18名(48.6%)だった状況から、健康管理のため、受診率向上には、自己負担4,000円の無料化を検討すべきと思うが考えを何う。

答 脳ドックの実績は平成30年度は95名、令和元年度は80名であり、そのうち40歳から69歳の受診者は平成30年度49名令和元年度37名である。

脳ドック検査結果から、病気の早期発見・早期治療に繋がりが大変重要であり効果があると考ええる。

自己負担に対する町民の声もあることから、より受診しやすい体制を整えるために、令和2年度は自己負担を無料

化するための予算計上をした。



問 後期高齢者の脳ドック対応

答 後期高齢者も受診可能に

問 脳ドック受け入れ医療機関の対応状況と後期高齢者の脳ドック検査受診に対する考えを何う。

答 平成30年度の事業開始時では、受け入れ医療機関に限りがあったが、釧路市内の病院の協力により、令和

2年度は120名まで受診可能となった。

後期高齢者の受診は、病気の早期発見、早期治療に繋がり、町民の健康づくりを推進するためにも、重要であることと認識している。

医療機関の関係で限られた人数となるが、受診可能にするため令和2年度に予算計上をした。

問 「風疹予防」の取り組み

答 受診喚起の周知強化

問 風疹は妊娠中の女性が感染すると、生まれる子供に深刻な障がいをもたらすこともあり、社会全体での感染症撲滅として国は抗体価(免疫)調査のため、「風疹クーポン券」の配布を行った。

本町において一年目の配布対象者314名で抗体検査受診者は48名、そのうち予防接種対象者10名の状況である。

国では国内外の交流人口の増加の見込みから、更なる対策強化を呼びかけている。

本町における情報提供及び受診喚起強化の取り組みについて何う。

答 国の風疹対策は、予防接種法に基づく定期予防接種を受ける機会がなく、抗体保有率が他の世代に比べて低い男性(昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれ)を対象に、令和元年より3年間、無料で抗体検査及び予防接種を実施するものである。

本町における情報提供及び受診喚起の強化は2年目以降の対象者に対して、職場の健診時に抗体検査が受けられるよう4月上旬に「クーポン券」を送付し、事業所等に対する検査勧奨も町広報誌やホームページを活用し周知する。

更に検査を受けていない人に対し、文書による個別勧奨を行い理解を求めていく。



澤原 孝行 議員

問 町職員の定年退職年齢について

答 法改正に準じて定年を引き上げる

問 町職員の定年退職年齢について
現在町職員の定年退職は、60歳となっているが、今後どのように変わるのか伺う。

答 国家公務員の定年を基準として、各地方公共団体の条例で定めることとなっている。2月20日付けの北海道新聞によると、政府は、現在60歳の国家公務員の定年退職年齢を令和4年度から2年ごとに1歳ずつ引き上げ、令和12年度に65歳とする方針を固め、3月上旬にも今国会での成立を目指す。

国家公務員の定年延長の法改正が行われれば、本町もそれに準じて「職員の定年等に関する条例」を改正し、定年を引き上げることになる。

問 介護用品の更なる援助について

答 将来に向けて内容を検討していく

問 町内で、在宅介護を受けている方に対し、現在行っている介護用品援助の他に更なる援助ができないか伺う。

答 本町は、介護用品の援助は行っていないが、在宅介護を行っている方の意見を聞いた中でオムツのごみ処理が大変との意見が多く、介護者の負担軽減を図ることを目的として、平成24年8月より在宅において介護を要する者が使用する「紙おむつなど排泄用品」用のごみ袋の現物支給を実施している。

今後、高齢化が進み長寿社会になっていく中、「施設や医療から在宅介護へ」という国の方針があり、本町もさらに在宅介護を受ける方が増えていくことが見込まれることから、現行のごみ袋支給事業が開始から7年余り経過し、将来に向けて内容を検討して



「紙おむつなど排泄用品」用のごみ袋

いく時期かと思慮し、在宅介護を受けている方がどういったことを必要としているのか把握したうえで、様々な角度から内容の検討をしたいと考えている。

傍聴者へのお願い

- 1 携帯電話、スマートフォンは電源をお切りください。
- 2 開議中は、飲食・喫煙はできません。
- 3 カメラ・録音機器の持ち込みはできません。
- 4 私語などにより議事の妨害、他人への迷惑をかけないようにして下さい。
- 5 帽子、オーバーコート等は着用しないで下さい。

議会に足を運んでみませんか。

町民みなさんの議会です。

定例会開会前に役場1階ロビーで会議日程及び一般質問の概要を掲示しております。

町のホームページにも議会情報を掲載しております。

<https://www.town.shiranuka.lg.jp/>



福地 裕行 議員

問 看板の書き換えはなぜ

答 認識しづらかった

問 「子育て応援日本一の町白糠町」の看板が設置後、書き換えられた。経緯は。答 施策内容が認識しづらいなどの意見があり貼り換えた。

問 費用対効果からも賛意は示せないし、設置前の検討が不十分だった。

答 効果的な広告として機能しているが、今後も適宜必要に対応を検討していく。

問 どうする負の遺産

答 令和3年度に撤去

問 負の遺産・旧国鉄白糠線の跨道橋2橋の撤去は。答 白糠町が費用を負担し、令和2年6月中旬頃に詳細設計を発注し、令和3年度に撤去する。

問 15年以上に亘り質してきたが先延ばしした結果、わがまの全額負担になったことは遺憾である。事業費は3倍位になるだろう。答 令和3年度の撤去事業費は、2億7850万円を予定している。

問 鉄道ファンの聖地でもあるから文化遺産として橋台をモ

問 ニュメントに。答 現状のかたちで残す。

問 創生総合戦略はいかに

答 現状を認識し対応

問 1次の反省を踏まえて地に足の着いた客観的な戦略にすべきだが、実績と共に伺う。答 社会情勢の変化に対応した新たな視点も取り入れ推進する。数値目標「新規雇用人数100人」「定住人口増加数400人」「合計特殊出生率1.46」「新規広域連携団体数2団体」に対し、各々「39人」「170人」「1.02」「0団体」。

問 答弁はレトリック、言葉マジックであり現実を直視するとき到底看過できない。上意下達ばかりではなく、知恵を集めてしっかりとした施策を講じるべきである。答 現状を認識した中で課題とその対応に向けた意識の共有が図られている。

問 ダム湖一帯は有望

答 広域連携を進める

問 一帯は有望な観光資源でもあるから、湖面を安全利用する枠組みを確立すべき。答 様々な角度から可能性を模索し、新たな展開を検討する時期がきているので議会とも相談しながら取り進める。

問 東アジアの宝島・北海道の中でもひがし北海道は世界に冠たる観光地になり得る。地勢・特性を活かす観点で広域連携の取り組みを。答 国・道および民間と連携を図り、検討を進めていく。

問 模範牧場を活かせる

答 知恵を集め検討する

問 町民の大きな財産であるが、設置目的に照らして有効に活用されているか疑問だ。時代

を見据えて更なる活用を検討すべきである。

答 共栄畜産有限会社の預託牛のみ受け入れているが、町と会社の双方にとって有効に活用されている。

問 素晴らしい財産を一私企業だけに使わせるのはいかにも勿体ないが、町のメリットは。答 年間2000万円ほど。30名程度の従業員のうち約半数が町内居住。今日まで町経済に多大な役割を果たしてきた。

問 条例、施行規則、処務規程の見直しも必要ではないか。答 必要に応じ適宜、改正の検討を進める。

問 放牧料金は条例に比して契約金額が著しく低い。併せて、牧場係長に充たる農政係専門員とは誰か。答 町の支出に係る単価設定による。庶務規程は速やかに見直す。

問 この時代を見据えるとき、有効に活用されていると胸を張れる場合ではない。「観光」に照らしても活性化に資する方策はある。答 様々な方々の知恵や意見を結集し、検討していかなくてはならない取り組みである。



中村 仁志 議員

問 町長選に出馬表明したが決意を伺う

答 「ふるさと白糖」を引継ぐため再度、町づくりの先頭に立ちたい

問 6期24年の実績と経験をもって精力的に全道町村会長、首長を務め「第一次産業の再興と振興」をはじめとする「3つの柱」を町づくりの中心に据え、総合的に展開しながら陣頭指揮をとってきたことは評価したい。そこで町長選に出馬表明したが決意を伺う。

答 私は平成8年の就任時に、「地域や町は子や孫への贈り物である」という信念のもと、「子どもたちの笑顔輝くまちづくり」、「お互いの力で築くまちづくり」を目指して、先人から受け継がれてきた自然など、豊かな地域資源を次の世代に引き継いでいくことを町民の皆様にご約束をさせていただいた。そのために、「今に生きる我々は、何をしてお

かなければならないのか、そのために今、何をすべきなのか」、このことを常に自問自答し、今日まで町政執行にあたってきた。

当初は思い切った行財政改革の断行、その延長線上にあった町の将来を左右する市町村合併という最も大きな行政課題に直面し、自立の道を選択後はそれまでを上回るかつてない財源不足への対応など町民皆様には大変な理解と力添えを頂かなければならない状況でした。

私はこの経験こそが、わが町が将来に向かって持続可能な行財政運営を維持していくための確かな基盤を築きつつある今日、町づくりを進める上での大きな推進力になっていると思う。

今後の取組についてもしっかりと方向付けをし、今日までの経験を最大限に生かし、次の世代へ活力ある「ふるさと白糖」を引き継ぐため、町づくりの先頭に立ちたいとの思いを強く持っている。

私の次期町長選へ向けての決意の表明とさせていただきます。

問 ヤナギの取り組みの進捗状況は

答 国や北海道の動向などの情報収集を行っている

問 ヤナギを活用した取り組みは何年もたつが、新たな産業、雇用の創出に向けての進捗状況を伺う。

答 ヤナギを活用した新産業や雇用の創出は、ヤナギのおが粉製造と菌床メーカーへおが粉を供給する方向へと内容が絞られ、町内の民間企業において、おが粉製造工場の規模や場所の選定、供給先の確保やヤナギ原木の調達計画、現在の経済状況や経営計画など、あらゆる角度から検討を加え、起業化に向けた最終判断の段階にあると聞いている。起業化が実現した段階でできる限りの支援に努めていきたい。

問 少年団チームを送迎支援できないか

答 送迎支援の実現は困難

問 小学校の児童数減少で少年団チームや練習場所の統合が進む中、保護者の送迎にかなりの負担があり、町として送迎支援を出来ないか伺う。

答 現在、白糖町スポーツ少年団本部に登録している団体はバレーボール、サッカー、バドミントン、陸上、柔道、剣道、白糖学園レクリエーションクラブの7団体であり、各団体の練習開始時間及び練習場所も、指導者のスケジュールや練習場所の利用可能時間帯の違いにより、一様ではなく、更に一週間における練習日もバラつきがある。このため、スポーツ少年団への送迎支援は、活動趣旨や練習開始時間及び練習場所を考えた場合、実現は困難である。



鎌田 民子 議員

問 加齢性難聴者への支援の考えはないか

答 国や北海道の動向などの情報収集を行っている

問 加齢によって難聴となり生活に支障をきたしているものの、規定（70デシベル）以上の聴力があるため、身体障がい者として認定されない軽度、中度の方の把握について伺う。

答 把握はしていないが、一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会は、65歳から74歳では3人に1人、75歳以上では約半数が加齢性難聴者の可能性があるとの見解を示している。

このことから、本町においては、65歳以上74歳の方で、約500人、75歳以上では約800人、合わせて約1,300人の方が聞こえに不安があると推計している。

問 難聴により会話が少なくなり、その結果引きこもりや要介護になりやすくなるというわ

うか。

答 実態の把握はしていない。厚労省は、難聴を認知症の危険因子の一つとして、発症予防につながる取り組みの必要性を述べている。本町も「生き生き事業」など、生きがいづくりや、健康づくりを推進している。

問 身体障がい者手帳交付の対象とならない軽度、中度等の難聴高齢者に対して、補聴器の購入に要する費用の一部を助成するなど具体的支援の考えを伺う。

答 現在のところはその考えはない。国や北海道の動向などの情報収集を行っている。



問 ヤナギの取り組みの進捗状況は

答 国や北海道の動向などの情報収集を行っている

問 ヤナギを活用した取り組みは何年もたつが、新たな産業、雇用の創出に向けての進捗状況を伺う。

答 ヤナギを活用した新産業や雇用の創出は、ヤナギのおが粉製造と菌床メーカーへおが粉を供給する方向へと内容が絞られ、町内の民間企業において、おが粉製造工場の規模や場所の選定、供給先の確保やヤナギ原木の調達計画、現在の経済状況や経営計画など、あらゆる角度から検討を加え、起業化に向けた最終判断の段階にあると聞いている。起業化が実現した段階でできる限りの支援に努めていきたい。

問 少年団チームを送迎支援できないか

答 送迎支援の実現は困難

問 小学校の児童数減少で少年団チームや練習場所の統合が進む中、保護者の送迎にかなりの負担があり、町として送迎支援を出来ないか伺う。

答 現在、白糖町スポーツ少年団本部に登録している団体はバレーボール、サッカー、バドミントン、陸上、柔道、剣道、白糖学園レクリエーションクラブの7団体であり、各団体の練習開始時間及び練習場所も、指導者のスケジュールや練習場所の利用可能時間帯の違いにより、一様ではなく、更に一週間における練習日もバラつきがある。このため、スポーツ少年団への送迎支援は、活動趣旨や練習開始時間及び練習場所を考えた場合、実現は困難である。

問 スマートフォンやタブレット端末の使い方について

答 ルールの徹底を全町民へ向けて啓発していく

問 ツイッターなど会員制交流サイト（SNS）を通じ、性犯罪などの被害にあった道内の未成年が小学生を含む117名に上り、過去最高の報道があった。小・中学生のスマホやタブレットの所有状況について伺う。

答 令和元年10月末現在で、小学生25・4%、中学生61%、タブレットは、小学生で19・7%、中学生で32・3%。全国平均よりは低いものの、年々所持数が増加傾向にある。

問 使い方を教える、例えば“情報モラル教室”などの取り組みと、今後の課題について伺う。

答 今年度は、警察官や携帯電話会社の社員を招へいして



ネットいじめや、ネット犯罪の未然防止に関する「防犯教室」を実施している。また、「白糖町子ども会議」を実施し、端末器の使用は、児童・生徒が中心になり、ルールの徹底に向け話し合うなどの取組が行なわれている。今後の課題は、「情報端末機器に関するアンケート」結果で、ルールや約束事が徹底されていない家庭が多いことが明らかになったことから、参観日、学校日より、町報などを通して、全町民へ向けて啓発していく考えである。



中河 敏史 議員

ない。特に今対象となつてい
るのは戦後の日本を支えてき
た方々である。子育て日本一
を掲げるわが町において、同
じく安心して老後が過ごせる
町にする必要があると思うが、
老老介護、認認介護の現況は、

一、医療機関の訪問診療、訪
問看護サービス体制がある。
サービスを切れ目なく受けら
れることを目的とした「つな
がり手帳」の活用を推進して
いる。
二、介護予防として運動機
能、口腔機能の低下予防とし
て「生き生き教室」、「物忘れ
予防教室」の開催、地域の人々
が集える「通いの場づくり」
に向け町内会および社会福祉
協議会との調整を行っている。
高齢者の見守り体制の強化と
して町内の各事業所と見守り
協定を締結し、見守り体制の
強化を図っている。

となっており計画を上回るス
ピードで進んでいる。老老介
護、認認介護の必要な方は介
護保険制度の中でケアマネー
ジャーを中心に在宅介護サー
ビスを利用し、介護が難しく
なった場合施設入所を検討す
る。今後の高齢化の予測を踏
まえ、介護が必要になっても
可能な限り地域で安心して暮
らし続けられるよう、介護サ
ービスのバランスを取りな
がら制度を踏まえ対応してい
く。

介護サービスが受けられるも
のと認識している。介護サー
ビスを利用するためには所
得に応じた負担が必要であ
る。(1〜3割) 低所得者が
自己負担金の支払いが困難に
なる場合が考えられるが経済
的に困難な方へは減免制度が
あり、自己負担が高額になつ
たときに支給する「高額医療
サービス費」、「高額医療合算
介護サービス費」の制度があ
る。特別養護老人ホームなど
の施設サービス利用する際
の居住費と食費も軽減され
る「特定入所者介護サービス
費」の制度や特に生計が困難
である方に対し利用者負担額
の四分の一が軽減される「社
会福祉法人利用者負担軽減事
業」も行っている。制度を利
用してもなお支払いが困難に
なり、介護サービスを制限し
なければならぬ方は「境界
層措置」という制度がある。
これは施設サービス利用のさ
いの諸費が基準額を適用すれ
ば要保護者となるが、負担の
低い基準額を適用することで、
一般より低い負担で利用でき
る。



問 老老介護、認認介
護の現状は

答 支援サービス提供
体制の構築を推進

問 高齢化が進む中、社会全体
の問題となっているのが介護
問題であり、本町も例外では

問 地域の包括的な支援・サー
ビス提供体制の構築を推進し
ているとあるが、内容は、

答 国は、可能な限り住み慣れ
た地域で暮らし続けられるよ
う、ケアシステムの構築を推
進している。本町の取り組み
は、

問 本町における老老介護、認
認介護の対策は。

問 老老介護、認認介護は健常
者であっても介護することは
肉体的、精神的にも多くの負
担がかかる、高齢者であれば
さらには大変であり認知症の方
であればなおさらである。十
分な介護サービスを受けるに
は金銭的にも負担が大きく、
受けたくても受けられない方
が多くいると考えられる。本
町は子育て日本一を掲げてい
るが子供たちだけを支援して
これらの方々に敬意を払って
いく必要があると思うが。

問 要介護認定を受けている方
は、要介護度により介護サー
ビスは保証されており公平に

答 本町における老老介護、認
認介護の対策は。
本町の高齢化率は当初、令
和2年38・8%と推計してい
たが令和2年1月現在人口
7,700人に対し高齢者
3,157人、高齢化率41%

答 要介護認定を受けている方
は、要介護度により介護サー
ビスは保証されており公平に

答 要介護認定を受けている方
は、要介護度により介護サー
ビスは保証されており公平に

問 町営住宅の入居資
格の緩和を

答 入居資格の一部を
緩和するよう検討
する

問 本町の町営住宅は現在、5
団地487戸あり、このうち
政策空き家94戸、目的外10戸
を除くと改修が必要な戸数を
含め69戸が空き家状況となっ
ておりこの状況が続くと一層
老朽化が進み維持修繕に相当
費用がかかると思うが次に
ついて伺う。
人口減少対策の一環として
今ある公営住宅のうち、何棟
か独身者の為の住宅として独
身でも入居できるように規制の
緩和と施設の整備をしてはど
うか伺う。

問 若者の定住促進のための住
宅を新規に建設する考えはな
いか伺う。

答 若者の定住促進のための住
宅は、その必要性は感じてい
るが、公営住宅の規制緩和に
よる空き家対策を優先的に進
め、その後に需要動向を確認
し、検討する。

答 若者の定住促進のための住
宅は、その必要性は感じてい
るが、公営住宅の規制緩和に
よる空き家対策を優先的に進
め、その後に需要動向を確認
し、検討する。



折出 征清 議員

問 町営住宅の空き家の状況は、
ここ数年の入居募集に対して
応募数が少ない状況であり、
また、退去も多く空き家の数
が減らない状況である。公営
住宅法の過去の改正では、独
身者の入居は可能となったが、

答 町営住宅の空き家の状況は、
ここ数年の入居募集に対して
応募数が少ない状況であり、
また、退去も多く空き家の数
が減らない状況である。公営
住宅法の過去の改正では、独
身者の入居は可能となったが、



町営住宅(日の出団地)



日の出団地 HK-1-7

委員会の動き

「第1回定例会の運営について（変更）」を協議した

2月26日に定例会の運営を協議したが、新型コロナウイルス感染症拡大予防に対する国、道の小中学校等の臨時休校の要請、道の緊急事態宣言、道議会、他町村の議会対応等を受け、正副議長との協議のもと、定例会の会期短縮を図れないか諮問され、本議会も今後の不測の事態に備

え、定例会の運営について協議した。

○会期及び議事日程の変更
会期は、3月4日から7日までの4日間とし、休会は、議案精査及び新年度予算の審査に係る特別委員会のため3月5日から3月6日までを休会とした。

議会運営委員会

第1回定例会の一般質問について
第1回定例会の運営について
第1回定例会の運営について（変更）
議会関係例規の改正について

全員協議会

第1回定例会の運営について
新型コロナウイルス感染症に伴う地域経済対策について
新型コロナウイルス感染症の予防対策について

する取り扱いとした。

一般質問は、町長等から答弁書を配布することし、再質問は文書質問で対応する取り扱いとした。

令和2年度予算設定は、総括説明の朗読を省略し総括説明書を配布することとした。

○会議中の予防対策について
会議中は全員マスクを着用し議場入口に消毒液を設置。

※今回の議会運営委員会で決定したことを更に全員協議会に諮り決定した。



第1回定例会議場の様子

総務文教常任委員会

防災・減災に関すること

津波避難施設について今後どのように執り進めるか協議した

令和元年12月13日に開催した委員会で当局から資料提供

をいただいた津波避難対策（避難施設）の先進事例を参考に白糠町に津波避難タワーなどが必要か。また、必要であればどのような施設がいいのか場所も含めて今後、詳しく調査することとした。

産業厚生常任委員会

太陽の手”子育て支援事業に関すること
第一次産業の振興・発展に関すること
一般廃棄物の処理に関すること

結婚無料相談及び婚活事業の実績と今後の取り組みについて調査した

結婚無料相談は、結婚から育児までの切れ目のない支援を行うため、相談窓口を設置。10月5日から6日で実施した結婚活動支援イベントの実績は、男女各17名の参加のうち11組が成立し、実際組数は4組となっている。

今回開催したイベントを検証・改善を図り、継続して開催をしたい。

【議員からの質疑】
結婚へのアプローチに温度差がある、具体的にどういうことか。

結婚を期待している保護者に対し男女の出会いを促したいが、今すぐ結婚は考えていないという参加者の方が多いことから、結婚へのアプローチに温度差があるという表現をした。参加費の宿泊も旅費も全部自費か。



結婚活動支援イベントの司会

女性の参加の移動手段は自費ですが、宿泊料と飲食代参加料は、無料として募集している。

子育て支援事業に関する取り組み状況について調査した

子育て世代が抱えている経済的負担を軽減し、安心して子どもを産み育てられる環境を整備することで、若い世代の人口減少の抑制及び移住・定住の促進を図るため18歳ま

新規就農対策の現状と今後の取り組みについて調査した

新規就農フェア等への出店は8会場で実施、ブースへの訪問者は延べ67名、来庁者9名、問合せ件数は4件です。

今後の取り組みとして、受入体制の確立し、農協と連携して受入農家の情報提供を行い、和天別ほ場の整備、農業用機械を購入する。

新規就農フェア等の出店も継続して行う。

その他にも、プロの方による新規就農PR動画・パンフレットを作成する。

【議員からの質疑】
圃緑地区のほ場の整備、採草地から畑地にしたが、更にどのような整備をするのか。

圃土壌改良は排水積面の向上を図るための暗渠、鹿対策が

新型コロナウイルス感染症に伴う地域経済対策について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、売り上げが減少し深刻な経営状況の店舗も出始めており、町と白糠町商工会が情報を共有し協議を進める中で、商工会からの要望書提出を受け、町内飲食店などの利用促進を図るため、町が一人5,000円の商品券交付事業を行うことについて説明があった。

【議員からの質疑】
全町民が交付対象だが、外国人研修生なども含むのか。
外国人研修生も住民登録されているので、対象となる。
商工会に入っていない飲食店なども多々あるがどのように取り扱い店を決定するのか。
商工会に委託をし商工会が幅広く取扱店を募集する。
間総事業費の予定額は。
間積算の途中ですが、概算で

新型コロナウイルス感染症の予防対策について

新型コロナウイルス感染症の予防対策として、町が全町民にマスク5枚ずつを無料配布するとともに、役場をはじめ町内5か所に消毒液（次亜塩素酸水溶液）を入れたタンクを設置して供給することについて説明があった。

【議員からの質疑】
マスクのサイズは大人用となるのか。
答 一般用の大きさしか手に入らないため大人用となる。
間 消毒液の供給は、もう少し早く出来ないのか。
答 次亜塩素酸のパウダーが手に入るのが4月に入ってからで消毒液を入れるタンクもまだ、納品になっていないため4月27日からの実施となる。

必須になるため防護柵の設置等を検討している。

圃農地の土質は、蔬菜の栽培にむいているのか。

圃5年間野菜の栽培実績があり、デントコーン、野菜畑として作付実績を加味し選定した経過があるが、土壌としてはどうなんだという話もあり、今回、土壌の改良をする。

指定容器（資源ごみ袋）の取り扱いについて調査した

アルミとスチール缶の資源ごみ袋について、小さいサイズの必要性を団体等からニーズ調査を行った結果60%以上の方から「小さいサイズの袋を利用したい」との回答があり、20リットの袋を作成するよう準備を行っている。今後、条例改正も必要となる。

【改正点】

①アルミ缶とスチール缶の20リットの資源ごみ袋を新規に作成し、町民の利便性の向上を図る。
②民間企業が製造販売している資源ごみ袋について、町が他市のように方法を変更する。

【議員からの質疑】
圃特殊ゴミの希望は無かったか。
圃特殊ごみは、普通に燃えるごみと燃えないごみ同様、現在35、20、10リットの袋は用意されている。

最終処分場の広域化に関する進捗状況について調査した

令和元年度に基本設計業務等を行っている。令和2年度に実施設計業務完了後、事業費や事業内容の詳細が見えてくる。供用開始は計画通り令和6年度の予定である。

なお、本町の最終処分場は、以前のこの委員会の中で最終処分場の広域化に参画した後は閉鎖することを検討すると説明したが、現時点では可能な限り延命を図り不測の事態に備え活用を考えている。

【議員からの質疑】
圃最終処分場は、機械的に整備なり更新の必要はないのか。
圃定期的な修繕などを行い延命化を図っている。令和2年度に浸出水処理施設を管理するシステム全体の入れ替えを行う予定。

※ 黒丸日付は紙面の都合により掲載しておりません。

報告
議会改革・活性化特別委員会
第1回中間報告（6月から2月）

○委員会等開催状況

①議会改革・活性化特別委員会	8回
②小委員会	3回
③分科会	3回
・総務・文教分科会	3回
・産業・厚生分科会	3回
・議会運営分科会	9回
・広報・広聴分科会	7回

○活動結果

①議会改革・活性化特別委員会研修会の実施

令和元年6月26日に北海道自治会館で北海道道町村議会議長会事務局長村川寛海氏より「議会改革・活性化について」の講演をうけた。
 道内の議会改革先進地3町の改革事例の内容、議員定数削減等による議員なり手不足の要因、各委員会構成への影響、一般質問、質疑、討論の

活性化による議会の活性化や議会報告会の事例など、本町の議会の現状と課題を認識したうえで、今後、本特別委員会が議会改革・活性化に必要な調査・検討事項の参考となった。

②分科会による改革・活性化案の洗い出しと活動

計画の策定
 分科会方式は、本特別委員会への提案型をめざし、複数多岐にわたる案件を能率よく各委員が自由、闊達に議論するために設けた。
 各分科会では、所管に関わる改革・活性化案を洗い出すことで、議会運営の改善点、各委員会の活性化の必要性、議会関係例規の改正と再認識など、抜本的な見直し案が各分科会から提案された。
 また、本特別委員会が年度末ごとの中間報告と、適宜、執行機関に対し提言書を提出

しながら、最終的に政策提言型の委員会報告書を令和4年度12月に提出することを目標とする活動計画を策定した。

③「町民と議会の懇談会」の開催と町民の意見・要望の対応

議会基本条例に基づく懇談会の開催にあたり、従前の開催要綱を見直し、名称を「町民と議会の懇談会」と改め、平成26年4月以来の懇談会を開催した。
 今回は改選期でもあることから議会報告会とせず、町民等が提出する請願・陳情の取り扱いの説明や町民と議員の自由な意見交換の場とし、広聴活動の充実を図った。
 ※開催日、対応等は、議会だよりNo.147に掲載

④「議会出前懇談会」の新設

町民に開かれた議会をめざし、町民や各種団体と議員がいつでも、どこでも意見交換ができる機会をつくるため、「議会出前懇談会」を新設した。
 町民5人以上が希望するテーマに沿って所管する議員

⑤提言書の提出と改善

本特別委員会は、予算・決算審査の運営や旅費の見直しについて3件の提言を委員会報告書として議長経由で執行機関に対し通知をし、提言通り改善が図られた。
 ※提言の内容は、議会だよりNo.146に掲載

⑥議会関係例規の検証及び改正

議会の基本条例、委員会条例、会議規則、傍聴規則、運営に関する基準、政治倫理要綱、先例の全条項を検証し、改正の有無や新たな取り組みが必要なものなど審議した。
 今後も更に検証作業は継続するが、議会の議決が必要な条例・規則の一部改正については、次期定例会の発議を目標とし、他の例規については、適宜、一部改正することとした。

⑦議員定数・議員報酬・政務活動費の協議

前期の議員定数等調査特別委員会の最終報告を尊重し、総務・文教、産業・厚生、の2つの分科会で議論し、根拠に基づいた各見直し案を本特別委員会で報告し、異論を交わしながら全体で協議している。
 今後も協議を継続し、令和2年度の懇談会等において協議内容を町民に説明し、意見を聞きながら、令和2年度中に決定することとした。

○令和2年度の活動について

本特別委員会は、今後も各分科会からの報告、提案を基に調査・検討を行い、議会改革・活性化の実現を図りながら、適宜、執行機関に対し提言する。
 ・条例、規則の一部改正
 ・議会会議録のホームページ公開
 ・議会通年会期制の検討
 ・「町民と議会の懇談会」の開催
 ・「議員出前懇談会」啓発と実施
 ・常任委員会の活性化
 ・広報調査特別委員会の常任委員会化の検討
 ・議員定数、議員報酬、政務活動費の協議
 ・委員会第2回中間報告

追跡

あの案件は
 どうなった？



アントキノシツギ

旧国鉄白糠線の高架橋について

平成14年第1回定例会
 福地議員の一般質問

国道392号線にまたがる2本の鉄道高架橋は崩落の危険性が指摘されている。財政逼迫の今日莫大な撤去費用の捻出は難しいと座視し、これ以上先送りは許されない。最優先で取り組むべき課題である。

答弁

平成14年度の撤去は非常に困難

2橋を撤去する概算費用は、今の積算で1億1,800万円という内容で、一般財源の苦しい内容から、平成14年度における撤去ということは、非常に困難な状況である。

どうなった

令和3年度の撤去に向け、令和2年度に実施設計をする

跨道橋2橋の撤去に係る実施設計は、令和2年度に行い、令和3年度に撤去を実施することで釧路開発建設部と協議が整った。



鉄北集会所の増改築について

平成23年第2回定例会
 立石議員の一般質問

「鉄北集会所」は、建設後40年以上経過し老朽化しており、一部雨漏りしている部屋もあり、冬期間暖房しても各部屋は非常に寒い状況である。地震対策上からも修繕・改良する必要がある。鉄北集会所の増改築をしては。

答弁

大規模改修の検討事項として位置付ける

鉄北集会所の改修の必要性は十分認識しており、第7次の白糠町総合計画で、大規模改修が検討事項として位置付けされている。利便性のいい施設という形の中で検討していきたい。

どうなった

令和元年度「鉄北集会所」の建替えを実施

建替えられた「鉄北集会所」は、令和2年4月1日（水）から供用開始となった。





白糠いい店 こんな店

今号でご紹介するのは、昨年、南大通り商店街にオープンした「ティアラ・M」さんです。

1階はピザ、2階はエステと、店主（佐藤さん）が二つのお店を一人で経営しています。

店に入るとすぐ対面カウンターがあり、ピザの注文、エステの受け付けができます。

家庭的なピザは、オープン時より3種類も増え、現在8種類となっています。中でもモッツアレラチーズをたっぷり使ったマルゲリータ、食べ応えのあるナスの乗ったボロネーゼピザ、国産鶏ひき肉とスパイスの効いた中辛のキーマカレーピザが人気です。

エステを経営するため資格を取得した腕の持ち主です。エステは、90分、60分、お試しの30分のコースがあり、中でも90分コースの光美顔は、肌の体質に調節した光をあて顔の肌艶を良くします。（効果には個人差があります。）

●住所：白糠町東3条南1丁目1番地10

●電話：(6) 0606

携帯：090-3892-1285

●営業日：水曜日・金曜日

●営業時間：11時00分～18時00分（ピザ）
18時30分～（完全予約のエステ）

ティアラ・M



◀光美顔器

▲店主の佐藤正子さん

【おしらせ】ティアラ・Mさんからのご提供～「議会だより見たよ」で、ピザ注文の場合は「ジュース1本」。エステフルコース90分予約の場合は「パックシート」をサービス。（本年5月末迄。お一人様何回でもOK）



あしがき

令和2年第1回定例会を3月4日、職員も議員も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全員がマスクの異様な雰囲気で開催。一般質問が省略され、文書答弁のみで終わり散会した。

5日より予算審査特別委員会が開催され、私が委員長で気を張って臨んだが、当日追い打ちをかけるように今度は観測史上最高を更新する降雪65センチ。交通機関に影響は出たが、無事2日間で特別委員会を終えた。

そうした中、現実目を見れば、国難とも言うべき新型コロナウイルス感染症が全世界に拡大している。これを一日も早く終息させ、町民の皆様の命と健康を守り、暮らしへの影響を最小限にするためには、まさに今が山場であり、これまでにない思い切った政府の対策が必要と思われる。（中村）



今号の表紙



今号の表紙は、4月1日に開催された、「学校法人二葉学園 白糠こども園」開園式・入園式の様子。

開園式では、園児による歌が披露され、入園式では、園児の緊張をほぐすため手遊びが行われた。